

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 南勢校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献するひとを育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し実践する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○県立高等学校活性化計画（平成29年3月）をふまえ、活力ある教育活動を展開する教職員 ○総勤務時間縮減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。</p> <p><地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。</p> <p><中学校> 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。 取組内容の中学生及びその保護者への浸透</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。</p> <p><町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。</p> <p><地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。</p> <p><NPO等地域活動団体> SBPを中心とした生徒による地域活性化への貢献。</p>	<p><保護者> 学校と連携した家庭での生活指導。学習活動への協力。</p> <p><町・町教育委員会> 連携型中高一貫教育をはじめ、コミュニティ・スクールとしての発展に向けた協力。高大連携の協力。地元への就職支援。</p> <p><地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。 地元企業の採用増加。</p> <p><NPO等地域活動団体> SBPを中心として、生徒が活躍できる多様な機会の提供。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた生徒の活動状況（SBPやふるさと劇団等）の地域に対する貢献度は大きい。 ・生徒のバス乗車や学校周辺での行動においてマナーに課題があり、継続的な指導が必要である。 ・近隣中学校生徒との交流活動を活発化させ、中学生が行きたい高校となるよう地道な活動が必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>少数ではあるが多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。連携型中高一貫教育による教育の連続性、また町の支援により進学等課外指導や就職支援員による就職支援等で成果を上げている。</p> <p>今後、少人数教育を行う中で、メリットをより活かし、デメリットを最小限にする教育活動方法を構築する必要がある。</p>	

	て日常生活に臨むとともに、生きることの尊さ、生命のかけがえなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。	生徒玄関での朝の挨拶運動に取り組み、子どもたちが生活しやすい環境づくりに努めた。
--	---	--

改善課題

- ・落ち着いた授業が実施でき、学力の向上も見られるが、一部生徒には授業に集中できないなどの状況がある。基礎学力の定着を図るとともに、各学年、基礎学力診断テストの成績上昇率者50%以上、Cゾーン以上の生徒の割合20%以上を目指し、指導を工夫する。
- ・基本的な生活習慣についても、挨拶、言葉遣い、服装など規律を正していくための教育が必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組み	(1) 教職員等を対象とした人権教育研修を行う。 (2) 特別支援教育についての研修会を実施し、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】 人権講演会…年1回、 特別支援教育研修…年1回	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に特別支援教育研修会を実施し、生徒理解に努めた。 ・二校舎合同研修で人権教育研修を行った。 	◎
情報提供による信頼の構築	(1) ホームページによる情報提供 【活動指標】 ホームページの更新 年間10回以上 (2) 授業公開、学校見学会等の実施 【活動指標】 年間2回 (3) コミュニティ通信を発行し、町内すべての中学校の児童・生徒に配付するとともに、町内39自治会に配付し、回覧する。 【活動指標】 年5回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに、ホームページのリニューアルを図るとともに、ホームページを通じて年間150回以上、生徒の様子や学校の取組など情報を発信した。 ・授業公開と学校見学会を合わせて2回実施した。 ・コミュニティ通信を年5回発行した。 	※
働きやすい職場環境づくり	(1) 総勤務時間の縮減を図るため業務改善に努めるとともに、年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間の縮減 月あたり4時間 ・休暇取得日数 年あたり1日分 ・定時退校日の設定 月あたり1日 ・部活動休養日の設定 週あたり1日 ・会議時間の短縮のために資料の精選 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から新たに学校運営協議会等の開催や、地域のイベントへの参加、小中学校との交流の拡充により、全教職員の時間外労働時間が月あたり1.3時間増加した。 ・休暇取得や定時退校日、部活動休養日の推進に 	※

		<p>取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議等は回数を減らすとともに一回あたりの時間を短縮し、効率的な運営に努めた。 	
--	--	---	--

改善課題

- ・授業公開や学校見学会などを充実させ、地域の方々への学校理解をさらに進める必要がある。

5 学校運営協議会委員評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生で課題のあった生徒が、本校舎で学校生活を通じて、生徒のプラス部分を伸ばしている。また、中学校の文化祭で高校生の発表を見たが、素晴らしいプレゼンテーション能力である。現在の学校の取組をもっとアピールし、生徒の活動をもっと発信していく必要がある。 ・近隣中学校生徒との交流活動を活発化させ、中学生が行きたい高校となるよう地道な活動が必要である。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着を図るとともに、各学年成績上昇者50%を目指し、指導を工夫する。 ・来年度から「地域創生アドバンスコース」が始まるため、地域の事業所や行政、大学等とさらに連携を深め、教育計画の充実を図る必要がある。 ・ALTや外部人材の活用により、コミュニケーション力や思考力を高める学習を展開する。 ・ICT機器を活用し、度会校舎との交流活動や学校行事、選択授業等の拡充についても検討していきたい。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした信頼される学校づくりを推進するため、学校運営協議会や活性化協議会等のアドバイスや支援を踏まえ、地域や南伊勢町、地元産業界等への連携をいっそう深める。 ・地域の課題や多様な気づきを発見させ、地域社会に貢献する人材育成を目指すため、近隣の小中学校と連携した取組や、多様な年齢・立場の人々と係わる機会などの拡充を図る。